



# 研究所だより



連日猛暑の日本列島ですが、少しずつ秋の気配を感じる毎日となりました。皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。また、日頃は教育研究所の運営、活動にご支援、ご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

町内の学校では夏季休業中に小中学校弁論大会、小学校水泳記録会が開催されました。子どもたちは、直接他校の児童生徒の発表や力泳を見ることで自分の力になったことが多かったのではないのでしょうか。一堂に会すこと、直接顔を突き合わせることの大切さを感じる人が多いこの頃です。

さて、少し前のことですが5月24日に行われた教育センター主催の春季教育研究所連絡協議会では、リモートではなく会場へ直接参加しました。司会の役をいただき進行する中で、リモートの画面を見るとたくさんの先輩方や同僚であった方、知り合いの先生などがこちらを向いているのが確認でき、懐かしさのあまり画面に手を振ってしまいそうになりました。もし集合していれば休憩時間中には近況報告などで話の花が咲いたことと思います。会場参加組の梶原町一貫教育支援センター森本所長と、近くのおすすめ拉麺屋で昼食をとりながら、集合研修を推進しましょう！と話したことでした。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史

## 第1回教育研究所運営委員会報告

本年度第1回教育研究所運営委員会を5月29日に開催しました。本年度の研究所の活動方針や重点的な取組内容の説明後、研究所の運営や中土佐検定について、委員の皆様より運営についてのご意見をいただきました。一部抜粋ですが下記のようなご意見交換がありましたので報告します。

- 検定は続けてもらいたいが、再々テストまで取り組む教員が大変ではないか。
- 帯タイムの時間等を利用して取り組んでいる。長年の取組として学校現場に定着している。
- 町全体で学力を上げる取組であり、学校独自で取り組むより学校の負担が少ない。
- 検定は中学校では、社会・理科も検定が実施されることはあるのか。
- 検定スタート時から、読み・書き・計算を基本とし、繰り返し学習することで身に付けることを大切に考えている。社会・理科の有用性も大変理解できるが現状では難しいと考える。
- 小学校では特に探求する心を育てたい。他の教科があることで算数にもいい影響があると思う。
- 探求心は学びの成長につながる。教育活動全般でそのような学びの場を作っていきたい。
- 段階に応じた対応は自己有用性を高める。スモールステップを踏めるような試験問題の作成や実施などはできないだろうか。意欲付けをしていくための「仕組みづくり」が必要と考える。
- 児童の個々の理解ができないので、その児童・生徒のスモールステップに合う問題を作ることは難しいが、検定合格に達しないが努力を認める賞（がんばり賞）を授与することで対応している。

## 第1回 中土佐検定結果

### 小学校 算数

学年	1年生	2年生 (15級)	3年生 (12級)	4年生 (9級)	5年生 (6級)	6年生 (3級)	町全体
受検者数		35	30	34	25	31	155
平均点		96.6	95.0	85.6	90.7	87.2	91.0
合格率(%)		100%	97%	100%	96%	100%	99%

### 中学校 英語

学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	39	29	31	99
平均点	82.2	86.1	85.6	84.4
合格率(%)	85%	83%	84%	84%



真剣に検定に取り組んでいる児童生徒の様子

### 中学校 数学

学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	39	29	31	99
平均点	72.1	84.3	86.9	80.2
合格率(%)	72%	90%	97%	85%



### 中学校 漢字

学年	1年生 (6級)	2年生 (4級)	3年生 (2級)	町全体
受検者数	38	36	31	105
平均点	82.1	80.2	85.1	82.4
合格率(%)	92%	78%	97%	89%

## 第1回 中土佐検定担当者会・教科担当者会

小・中学校の第1回中土佐検定担当者会、中学校の教科担当者会をそれぞれ開催しました。1回目の検定結果や各校の取組や課題を共有し、次のことについて確認しました。

第1回中土佐検定の平均点・最終合格率について

- ① 各科目の採点基準について
- ② 検定の実施時期について
- ③ テキスト・検定の内容の改善策について
- ④ 社会科副読本の活用状況と改善策について（小学校のみ）

中土佐検定テキストと中土佐検定は各校の実態の中で工夫しながら活用していただいております。「復習で活用できる」「間違いランキングが効果的」などの意見もいただきました。

今回、中学校英語の担当者会では、CBT化した検定試験の体験も行いましたが、今後テキストのデジタル化についても検討が必要となってきます。

テキストと検定が効果的に活用され、中土佐の子どもたちの基礎学力の定着・習熟にますます役立てることができるよう、研究所として取り組んでいく必要性をますます感じたことでした。

各校の取組状況は次ページの表の通りです。



### 小学校（算数）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、帯タイムに活用している。</li> <li>・検定前には、プレテストを行うことで、個々のつまづきを把握することができた。</li> <li>・テストやプリントなどが終わった児童が、取り組むことができるようにしている。</li> <li>・プレテストを家庭学習として中土佐検定の前に行った。</li> <li>・復習として時々持ち帰り、家庭学習として取り組んだ。</li> </ul>
上ノ加江小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水曜日5校時を「上小タイム」として、全校で中土佐検定に取り組む時間を設定し、検定テキストの問題に取り組んでいる。</li> <li>・月曜日のそうじ後の帯タイムを「ことばのきまり」の時間として、言葉や文法の学習として全校で取り組んでいる。</li> <li>・授業中のすきま時間にも検定問題に取り組んでいる。</li> <li>・家庭学習として取り組ませている学年はない。</li> </ul>
久礼小	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算タイム（モジュール）にテキストに取り組んでいる。その他算数の時間や放課後の学習で取り組むこともある。</li> <li>・プレテストや過去問に繰り返し取り組むようにしている。</li> <li>・プレテストを印刷して何回か宿題に出し、取り組ませている。</li> <li>・苦手な内容を繰り返し宿題プリントとして行った。</li> </ul>

### 中学校（数学）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が実態を正確に把握できるようにプレテストを活用している。そのうえで、生徒が自分たちの課題を考え、その解消のために帯タイム・チャレンジタイムなどを活用し、学力向上につなげることができた。</li> <li>・プレテスト問題を活用し、問題の解き方を定着させ、家庭学習の充実につなげている。</li> </ul>
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終学活で5分間、テキストの問題をノートに書いて学習するようにした。</li> <li>・1週間前にプレテストを行う。</li> <li>・間違いランキングを授業で示し、どこが間違っているのか見出ださせ、正しい答えを考えさせた。</li> <li>・週末、中土佐検定用ノートに教員が範囲を指示し、取り組ませたり、小テスト、プレテストを出したりした。</li> </ul>

### 中学校（英語）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムで、自分のペースでテキストに取り組む時間を与えている。また、プレテストA・Bを両方実施している。</li> <li>・帯タイムの時間に、Chrome bookを使用し、これ単を活用している。</li> <li>・Bノート（中土佐検定専用ノート）に問題を解く課題を出している。</li> </ul>
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間前より取り組み開始。</li> <li>・1週間前プレテストA・B実施。</li> <li>・80点未満の生徒は放課後学習を実施。</li> <li>・検定前はテキストから抜粋した問題に取り組ませている。</li> <li>・家庭学習では、指定はしていないが久礼ノートに自主的にテスト範囲を勉強している。</li> </ul>

## 輝く中土佐の子どもたち

本年度も「研究所だより」の中で子どもたちの授業の様子を掲載させていただきます。学校と研究所との取り組みの共通理解を図り、授業の中で子どもたちが輝いている姿を掲載したいと思います。

☆6月28日（水） 久礼中学校授業改善プラン

授業者：植松 晃平 教諭

単元名：社会科 2年「中国・四国地方」

感想： 「中土佐町に観光客・移住者を呼び込む取組を考えよう」という課題で、中四国、高知県各地域の取組例や中土佐町の強み・弱みを学習した後、グループで中土佐町に移住者を呼び込む取組についてグループで話し合いを行いました。タブレットも活用し各グループで観光資源や交通網など、中学生らしい視点や発想での意見が話し合われ、ワークショップ形式でプレゼンを行いました。生徒たちは、それぞれ自分の考えを持ち、グループ内で積極的に出し合い、まとめ、他グループのプレゼンに対する意見もきちんと言っていました。自分事と考えて話し合っている姿が印象的でした。子どもたちが住んでいる町のことを自分事としてきちんと考えている姿に頼もしさを感じました。



久礼中学校の授業の様子

☆7月7日（金） 大野見中学校授業改善プラン

授業者：森 健太郎 教諭

単元名：社会科 1年「古代までの日本」

感想： ICT をフル活用で授業が進んでいきました。クラスルームのジャムボードを活用し、飛鳥、奈良、平安時代の画面上の資料を並べ替える作業やコメントを記入したりしながら、2グループでそれぞれ意見交換や並べ替えなど行い、最終的に自分のまとめに移行していく授業は先進的に感じました。生徒もタブレットを使うことは当たり前になっていて、これからも習熟して更に上手に使いこなしていくのだと思います。ICT機器もまだまだ発展途中の段階ですが、さらに簡便になって学校の環境で子供たちの理解の手助けに発展していってほしいものです。



久礼中学校の授業の様子

☆7月13日（木） 久礼中学校授業改善プラン

授業者：中平 善子 教諭

単元名：理科 1年「気体の発生と性質」

感想： 身の回りの気体の性質や変化、それを調べるための実験につなげる授業でした。37名の1年生が集中して学習していました。生徒たちは6年生のときの学習を覚えていて、酸素や二酸化炭素が呼吸などと関係していることを発表していました。また、デジタル教科書の動画をうまく活用して操作の方法などの理解を促していました。グループ活動でもリーダーが進んで話し合いを進めていました。

研究所便り 令和5年度 第2号 発行 中土佐町教育研究所  
〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼 6663-1  
TEL 0889-52-2250 FAX 0889-52-2013 発行日 令和5年8月31日